

令和 4 年度第 3 回松江市立法吉小学校学校運営協議会会議録

1 日 時

令和 5 年 2 月 16 日（木）14：05～14：50 授業視察

15：00～16：00 協議

2 場 所

法吉小学校 会議室

3 出席者

(1) 委 員 若林三成会長、木次三八郎委員、安達卓生委員、松浦ぎん子委員、
岩本千代委員、平石真由美委員

(2) 事務局 糸賀校長、常松教頭、別所主幹教諭、松本主事、土肥地域学校協働活動推進員

4 議 題

(1) 会長あいさつ

(2) 学校評価について

(3) その他

5 議事の要旨

(1) 会長あいさつ

若林三成会長より

(2) 学校評価について

校長、教頭、主幹教諭より

(4) その他

事務局より

6 会議経過

(1) 若林三成会長よりあいさつ

(2) 糸賀校長より、学校評価について事前にいただいた学校運営協議会委員からの回答に沿って説明し、続いて教頭、主幹教諭から具体的な学校での取り組みについて話をした。

《下記、委員からの意見》

①学校評価は、数字だけでは表せない。聞き方によって違うので中身で判断するしかない。そのうえで、お手紙相談は良い取り組みだと思う。子どもが話したいタイミングで向かっていける方が、本当の相談ができる。手紙を受け取って、教員が直接子どもと会って相談を受けた人数は何人ぐらいか。直接先生と話さなくていいという子どもへの返事はどのようにしているのか。

悩みを伝えるだけでなく、先生と話せることが安心感につながるのではないかな。このような取り組みについて、お便りなどで保護者へ返していくことが保護者の理解につながるのではないかな。

②学校評価で保護者から厳しい表現があった。コロナ禍や物価上昇など経済不安な状況で、その不安な気持ちの矛先が学校に向かうことが多々ある。学校での様々な取り組みが少しでも不安を取り除いてあげることにつながるのではないかな。

③職員に「子どもと親の相談員」「サポートワーカー」という肩書があるが、どのような仕事をされておられるのか。

④いろいろな立場の職員の方がおられるが、その方々と連携をとりながら調整する管理職は大変ではないかな。働き方改革と言われる中、人数が増えてむしろ複雑になっているのではないかなと感じた。

⑤今年度の学校経営の最重点事項が「図書館活用教育、基本的な生活習慣（食事、健康、運動）の確立」となっているが、本来学校がやらなければならないことは、学力を付けることではないかな。今年はこういう事に取り組んで、〇〇を伸ばしていく、など具体的な取り組みを保護者に明確に伝えてほしい。

《学校からの回答》

①について

先生と会って直接相談をしたいという子どもは、10人ぐらい。先生と直接話をしなくてもいいという子どもへのお手紙の返事は、教員から子どもへ声がけをしている。

③について

「子どもと親の相談員」「サポートワーカー」とともに、子どもからの相談を受けたり、登校時の対応、不登校児童の学習支援、家庭訪問を行ったりなど、子どもに応じて対応している。

「子どもと親の相談員」は、島根県の事業（松江市では年間 560 時間の勤務）

「サポートワーカー」は、松江市の事業（年間 約 1000 時間の勤務）

7 事務局より

・学校運営協議会委員への市教委からのアンケートに回答いただきたい。

（マークシート方式か QR コード読み取りのいずれかの方法で）